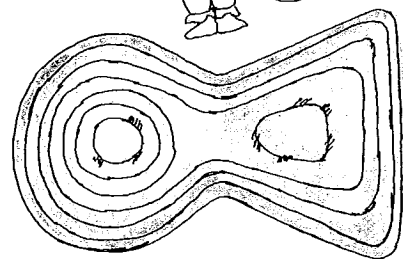


墳

おん
フン

15画
フ
フ
フ
フ
フ
フ
フ
フ
フ
フ
フ
フ
フ
フ
フ

なりたち 墳の意の貴と、土との会意形声字。中の土を外に噴き出したように、土を高く盛り上げた「墓」を表した字。土を盛り上げないのを「墓」、小さい墳を「塚」という。



▼土を盛り上げた墓。
墳墓：はか。用例墳墓の地。
（先祖代々の墓がある場所。また、そこから故郷の意味。）
古墳：土を高く盛り上げた、古代の墓。円墳・前方後円墳など、さまざまな形がある。

前方後円墳：前の部分が四角で、後ろの本体の部分が円い形をした古墳。著名な例では仁徳(元)天皇陵。

墳

漢字学習コーナー

漢字学習コーナー

訓の発明
表音文字は音の種類の数だけあればそれで用が足りるもので、日本では五十音でよいことになりました。だから、昔の日本人はせつせと五十の漢字を覚えて、自分の思いをそれで書きつづつたと思います。万葉集には、さまざまな人たちの歌が万葉がなで書かれています。

ところが、「字美・奈美」を「海・波」と書く方がわかりやすいし、字数が少なく済むと考えるようになり、今までの「意味を捨てて発音を借りる」と反対に「発音を捨てて意味を借りる」用法を採用しました。

ただ、この用法は、漢字を広く深く研究して、日本の言葉に当てる漢字を一つ一つ捜し出さなければならず、借りる漢字も二・三千字と大変な数になります。しかし、徐々に現在のようになつたので「文」を使うようになったのです。意味を借りて「海」を「うみ」と読むことを「訓読み」と言い、「うみ」を訓と言います。

万葉集を見ますと、初めは万葉がなばかりで書かれていますが、次第に訓読みの漢字が多くなつていて、かなばかりで書いていたものが、学年が進むにつれて漢字を多く使うようになるのと同じ様子が見られます。

一般にかなの発明が高く評価されていますが、それよりも訓の発明の方がずっと高く評価されるべきことです。

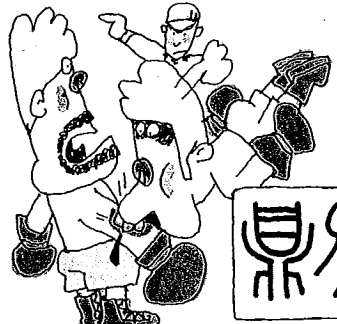
則

おん
ソク

5年

9画
一
一
一
一
一
一
一
一
一

なりたち 古い字形は則で、国の重器である鼎(かまど)と、刻む意味のリ(りつとう)との会意字。鼎に刻まれた国の重要な「披(ひ)」を表した字。「基準・法令・手本」などの意味に用いる。



読みかた

▼法の。基準。おきて。

法則：①守るべき、きまり。

②一定の条件のもとでは、常に成立すると考えられる、自然界の関係や秩序。

規則：きまり。さだめ。それに基づいていろいろなことが行われるように定めた基準。例規則的(秩序立った様子)。

原則：大部分の場合に当てはまる、基本的な法則。

会則：会の規則。

反則：規則に違反すること。

犯則：法律を犯すこと。

変則：規則や規定にはずれていて、型破りなこと。例変則的

▼手本。手本とする。

則天去私：天の法則に従い、私心を去る(捨てる)こと。

よみかた 学則・校則・罰則

則

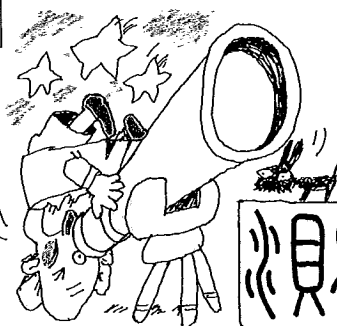
測

おん
はかる

5年

12画
一
一
一
一
一
一
一
一
一
一
一

なりたち 人物を量る基準の意味の則と、シ(さんずい)との会意形声字。水の深さを量る」という意味の字。今は広く、長さ・長さ・高さ・重さ、また、心の中を量る意味にも用いる。



読みかた

▼物の深さ、また、長さ・高さ・重さなどを測る。

測量：土地の形・位置・面積などを測ること。例測量術

測定：長さ・重さ・速さなどの量を測って求めること。例観測：①自然現象を観察し、その変化などを調べること。

例天体観測 ②種々の資料に基づいて、ある事柄の成り行きをおしはかること。

目測：目で見て、長さ・高さ・広さなどの大体の見当をつけること。

▼推し測る。

推測：これまでの資料に基づいて、未知の部分や将来の見通しについて推し測ること。

予測：将来のことをあらかじめ推し測ること。

よみかた 憶測・実測・不測

測

測

測